

広島大学 病院輸血部 2016 年業績

1) 論文

- 1) 河江敏広, 齊藤誠司, 岩城大介, 中島勇樹, 福原幸樹, 筆保 健一, 伊藤義広, 山崎尚也, 藤井輝久, 木村 浩彰. 後天性血友病患者に対する理学療法
の経験. 保健医療誌. 7(2):61-66, 2016.
- 2) 齊藤誠司、城下由衣、小川良子、池田有里、浅井いづみ、喜花伸子、金崎慶大、
藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、山崎尚也、藤井輝久、高田昇. 診断の遅れから
エイズ指標疾患を発症し、輸血前感染症検査にて診断にいたった中高年 HIV
感染者の 3 症例. 日本エイズ学会誌. 18(3):224-229, 2016.
- 3) Shinkoda Y, Shirahata A, Fukutake K, Takamatsu J, Shima M, Hanabusa
H, Mugishima H, Takedani H, Kawasugi K, Taki M, Matsushita T, Tawa A,
Nogami K, Higasa S, Kosaka Y, Fujii T, Sakai M, Migita M, Uchiba M,
Kawakami K, Sameshima K, Ohashi Y, Saito H. A phase III clinical trial of
a mixture agent of plasma-derived factor VIIa and factor X (MC710) in
haemophilia patients with inhibitors. Haemophilia 23(1):59-66,2016.

2) 学会発表

- 1) 藤井輝久、齊藤誠司、山崎尚也、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、高田昇: Aiti-
Retroviral Therapy (ART) 開始後 Low Level Viremia 持続または Viral
Remission (VR) 到達期間が延長する患者の特徴. 第 90 回日本感染症学会学術集
会. 2016 年 4 月 15 日-16 日. 仙台
- 2) 齊藤誠司、山崎尚也、藤井輝久、小川良子、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、高
田 昇: 広島大学病院における HIV/HCV 重複感染者での PEG-IFN+RBV 併用療法後
SVR 例の長期予後に関する検討. 第 90 回日本感染症学会学術集会. 2016 年 4 月
15 日-16 日. 仙台
- 3) 岡崎玲子、蜂谷敦子、瀧永博之、渡邊大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南
留美、吉田繁、小島洋子、森治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、
佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、上田敦久、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、
福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡慎一、松田昌和、重見麗、濱野章子、横幕能
行、渡邊珠代、田邊嘉也、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、
健山正男、岩谷靖雅、吉村和久: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における HIV-1 の
動向. 第 30 回日本エイズ学会学術集会. 2016 年 11 月 24 日-26 日. 鹿児島
- 4) 藤井輝久、齊藤誠司、山崎尚也、池田有里、小川良子、木下一枝、藤井健司、藤
田啓子、畝井浩子、高田 昇: ラルテグラビル 1 日 1 回レジメンの有用性に関する
考察. 第 30 回日本エイズ学会学術集会. 2016 年 11 月 24 日-26 日. 鹿児島
- 5) 齊藤誠司、山崎尚也、藤井輝久、城下由衣、小川良子、池田有里、村上英子、喜
花伸子、杉本悠貴恵、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、高田 昇: 広島大学病院

における HIV 感染者の覚醒剤使用の現状とその再乱用防止支援. 第 30 回日本エイズ学会学術集会. 2016 年 11 月 24 日-26 日. 鹿児島

- 6) 山崎尚也、齊藤誠司、藤井輝久、高田昇 : HIV 感染者においてサイトメガロウイルス活性化はカンジダ症の発症に影響を与えるか?. 第 30 回日本エイズ学会学術集会. 2016 年 11 月 24 日-26 日. 鹿児島
- 7) 新谷智章、山崎尚也、岩田倫幸、齊藤誠司、北川雅恵、小川郁子、岡田美穂、松井加奈子、濱本京子、畝井浩子、藤田啓子、小川良子、木下一枝、池田有里、藤井輝久、柴秀樹 : 抗 HIV 薬が口腔環境と味覚機能に及ぼす影響. 第 30 回日本エイズ学会学術集会. 2016 年 11 月 24 日-26 日. 鹿児島学会
- 8) 杉本悠貴恵、喜花伸子、山崎尚也、齊藤誠司、藤井輝久、城下由衣、池田有里、小川良子、木下一枝、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、村上英子、内野悌司、高田昇 : 臨床心理士対象初心者向け研修における研修効果の検討 : 研修前後の不安の変化と活動参加意思の変化から. 第 30 回日本エイズ学会学術集会. 2016 年 11 月 24 日-26 日. 鹿児島
- 9) 山崎尚也、栗田絵美、山岡愛子、平岡朝子、野間慎尋、廣瀬祥子、河野真由、小松真由美、矢内綾佳、齋藤誠司、藤井輝久 : 本院におけるアルブミン製剤の使用量実態調査. 第 64 回日本輸血・細胞治療学会. 2016 年 4 月 28-30 日. 京都
- 10) 河野真由、山崎尚也、栗田絵美、山岡愛子、平岡朝子、野間慎尋、廣瀬祥子、小松真由美、矢内綾佳、平野洋子、齋藤誠司、藤井輝久 : 自動血小板洗浄装置を用いて院内作成した洗浄血小板の有用性. 第 64 回日本輸血・細胞治療学会. 2016 年 4 月 28-30 日. 京都
- 11) 山岡愛子、河野真由、山崎尚也、栗田絵美、平岡朝子、野間慎尋、廣瀬祥子、小松真由美、矢内綾佳、平野洋子、齋藤誠司、藤井輝久 : 間接抗グロブリン試験において紫斑の反応促進剤を加えることにより擬陽性を示した一症例. 第 64 回日本輸血・細胞治療学会. 2016 年 4 月 28-30 日. 京都
- 12) 野間慎尋、山岡愛子、河野真由、山崎尚也、栗田絵美、平岡朝子、廣瀬祥子、小松真由美、矢内綾佳、平野洋子、齋藤誠司、藤井輝久 : 造血幹細胞移植における CD34 陽性細胞数と生着. 第 64 回日本輸血・細胞治療学会. 2016 年 4 月 28-30 日. 京都
- 13) 齋藤誠司、山崎尚也、藤井輝久. 定期補充療法施行中の成人血友病患者における関節症の保有と破綻出血の関連性の検討. 第 38 回日本血栓止血学会. 2016 年 6 月. 奈良
- 14) 山崎尚也、齊藤誠司、藤井輝久. 半減期延長型凝固第 VIII・IX 因子製剤の仕様に変更した成人血友病症例の検討. 第 38 回日本血栓止血学会. 2016 年 6 月. 奈良
- 15) 野上恵嗣、嶋緑倫、福武勝幸、花房秀次、藤井輝久、瀧正志、松下正、日笠聡、佐藤哲司、酒井道生、新井盛大、Barbara A Konkle : 血友病 A 患者における半減期延長型 PEG 化第 VIII 因子製剤の有効性と安全性 : 日本人被験者のサブ解析. 第 38 回日本血栓止血学会. 2016 年 6 月. 奈良

- 16) 福武勝幸、花房秀次、嶋綠倫、森永剛、藤井輝久. Japanese sub-analysis of LEOPOLD II: a phase 2/3 study of BAY81-8973, a new rFVIII. 第 38 回日本血栓止血学会. 2016 年 6 月. 奈良
- 17) Tomie.Fujii, Teruhisa.Fujii: Participation in school events of childrens with haemophilia in the era of prophylaxis in Japan. XXXII International Congress of the World Federation of Hemophilia. 2016 年 7 月. Oriando,Florida
- 18) Teruhisa Fujii, Naoya Yamasaki, Seiji Saito, Tomie Fujii: Activated partial thromboplastin time (APTT) of persons with haemophilia A can serve as a surrogate marker of their factor VIII activity. XXXII International Congress of the World Federation of Hemophilia. 2016 年 7 月. Oriando,Florida
- 19) 平岡朝子、栗田絵美、野間慎尋 山岡愛子、廣瀬祥子、河野真由、矢内綾佳、山崎尚也、齋藤誠司、藤井 輝久 : 抗 HPA-5b 抗体陽性患者の生体腎移植例. 第 61 回日本輸血・細胞治療学会中四国地方会. 2016 年 9 月. 岡山
- 20) Mitsuhiro Kuwabara, Hideji Hanabusa, Katsuyuki Fukutake, Kagehiro Amano, Masashi Taki, Jisin Yang, Midori Kobayashi, Koji Yamamoto, Tadashi Matsushita, Midori Shima, Keiji Nogami, Teruhisa Fujii, Satoshi Higasa, Michio Sakai : Sub-analysis of Japanese patietents with hemophilia B in rIX-FP clinical trial. 第 78 回日本血液学会総会. 2016 年 10 月. 横浜
- 21) Naoya Yamasaki, Seiji Saito, Teruhisa Fujii: Influence of quantity of von Willebrand factor antigen in hemophilia A. 第 78 回日本血液学会総会. 2016 年 10 月. 横浜
- 22) Seiji Saito, Naoya Yamasaki, Teruhisa.Fujii: Advocatiing scoring system to evaluate risk of intracranial hemorrhages in adult hemophilia. 第 78 回日本血液学会総会. 2016 年 10 月. 横浜

3) その他(商業誌等)

- 1) 平川佳葉子、松尾佳美、平郡隆明、沼田恒実、藤井輝久、高田昇、秀道広. 抗 HIV 療法中に水疱性類天疱瘡を発症した HIV 感染症. 皮膚病診療.